向陽新聞

高知市塩屋崎町1の2
土佐中・高校新聞部
編集人　川口　清史
発行人　高橋　侃
印刷　高知印刷

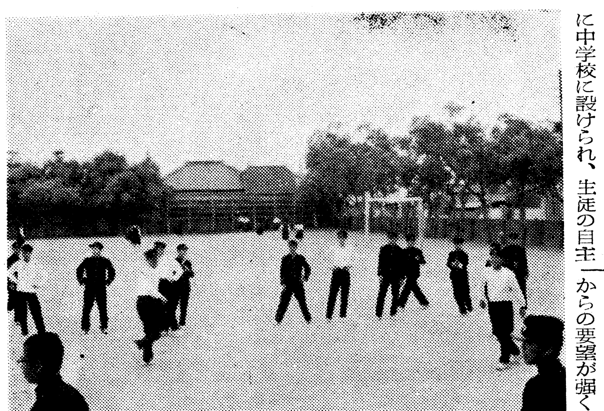
高橋写真館
京町　②6758

来年度から ホームルーム学校が指導

どうなる生徒の自主性

道徳との違いも注目

学校は四月に、来年度から中学校に道徳の時間を新設することを決定したが、その際道徳の時間とホームルーム時間の違いが問題になり、新たにホームルーム時間のあり方が注目されてきた。そこで学校は、ここ数年来不活発を唱えられてきたホームルーム時間のあり方を検討し、指導計画をたてたのち、いよいよ来年度から指導に乗り出すことになった。


男女別れてリクリエーションをするホームルーム

本校のホームルーム時間は、全国の中学校と同時に、昭和二十四年に中学校に設けられ、生徒の自主運営によって始められたもので、高校は八年後の昭和三十二年生徒からの要望が強く、比較的要望がなかった高三を除く高一、高二に設けられた。

生徒の自主運営で始められたホームルームは、学校側の一貫した指導もなく、生徒の無気力さもあいまって、とかく不活発になり、何度か起った活発化の動きも決定的には何らの影響も与えず今日に到っている。

本紙の調査によると、今学期のホームルームは大半のホームがスポーツを最も多くやり、また、このスポーツが生徒の間ではだんぜん好評である。校外散歩、主任講話、学級事務などがこれにつづき、六時限なら放課、その他なら自習という場合もしばしば見られる。今学期ディスカッションを最も多くやったところはわずか高一Kホーム一つである。この高一Kホームでは、ディスカッションは好評で比較的活発に討議されているという。しかし他のホームでのディスカッションは、一部の人だけで討議が行われ、低調に終わっている場合が多い。

学校はホームルーム時間の目的を「生徒同志が互に考え合わすための時間で、日常生活、学校生活など身近なところから、考えなければならない問題を取りあげ、話し合う。そして話し合ってゆくうちに、それぞれの人生観、世界観を作りあげてゆく」としている。それでこの目的にそうため、学校も「来年度からはディスカッションを軸にホームルームを運営し、指導する」と言明しているので、来年度からは「話し合うホームルーム」が生まれることは確実である。

実際の指導計画は、本年四月新設された特活部と、生徒部で検討中だが、半年以上たった現在、何ら確定的な具体案が示されていない。

特活部では、六月松浦、三枝両先生の東京出張の際、ホームルームモデルスクール忍ケ岡高校を視察、ついで十一月平岡先生も東京へ出張、私学教育研究集会へ出席し、高校におけるホームルームについて検討してきた。指導計画はこれらの結果を総合し、生徒の意見もくみ入れた上で、本年度中に作成される予定である。

今のところ具体的なものは何も示されていないが、話し合う議題及び討論形式などを指示するのではないかと見られる。議題については、中学校では来年度から道徳の時間が新設されるのでそれと、どのように違ったものがでてくるか大いに注目されるが、学校は「ホームルームでは目的にあるように日常生活の中から、道徳はいわゆる道徳的なもの倫理的なものを選ぶ」といっている。討論形式では東京の忍ケ岡高校や本校高一Kホームで成功している小グループの討議が採用されるのではないかと見られる。これはまずクラスをいくつかの小グループに分けてそれぞれで討議し、その結果を持ちよって全体討議をするというものである。

またその運営方法については、校長は生徒の自主性もできるだけ生かしたい意向であるが、実際にどの程度、どのように生かすかということは非常に難しい問題で「いっそすべて学校の手で運営して行き、生徒の要望はアンケートで調べるようにすれば」との声も相当強い。しかし、生徒の間では学校の指導をあまり歓迎せず従来通り自分たちの思い通りにやっていきたいとの声も少くない。学校の指導を望む者も、生徒の自主性を認めないような指導は拒んでいる。この問題はテーマの選定と共にホームルーム指導にとっては最大の難問であり、テーマの選定以上に注目されている。

なお現在、行われていない高三のホームルームについては「高校は週一時間必ずホームルーム時間を取るよう」という文部省の通達もあり、学校としても来年度からの「話し合うホームルーム時間」は高三にも設けたい意向で、目下、考慮されている。

校長談　今のようなホームルームなら、ない方がましなくらいだ。このような状態におち入ったのも学校の指導が悪かったからで責任は感じている。とにかく来年度からは学校が指導するわけだが生徒の自主性はあくまでも生かす。できれば高三にも設けたい。

特活部長松浦先生談　行事に追われて何もやってないが、今度の平岡先生の東京出張の結果がまとまりしだい生徒部の先生と研究をはじめる。とにかく今のままのホームルームでは何の意味もなさない。来年度からはディスカッションのための時間をふやし、生徒に任してはおけないので議題も、討論方法もこちらから指示するようになるかもしれない。

高一M君談　学校の指導はうれしいが、生徒の自主運営を無視するような全面指導は絶対に反対だ。こんなことをすれば生徒の自主性を踏みつけるのみでなく、上から押しつけられたものとして、みんなはホームルーム自身にソッポを向くようになるだろう。それにある程度は、リクリエーションも取り入れて欲しい。

学校を会場に一応成功か？

文化祭

第二回文化祭は十一月十七、十八の両日、開校記念日を中心に本校で開催された。文化祭も文化部の研究発表、一般生徒の情操教育促進をスローガンに発足して以来今回でやっと二年目を迎え一層の前進を促すために先年とは異なり本校が会場に当てられ生徒委員会、学校も二十万有の費用を費やして設備の完備化をはかった。展示には高三、図画、書道、新館の各教室が使用された。今年の展示の方は相当にレベルの高い物が目立ち、小規模にもかかわらずかなり充実していた。一方演芸の方でも、コーラスあり、演劇あり、英語劇ありと非常にバラエティーに富む熱演が展開された。文化祭終了後開かれた生徒委員会では文化祭の反省が議題にとりあげられたが、まず設備の面では、舞台の照明、マイクその他の点で未だ完全ではなく、一考の余地のあることが強調された。運営面等では展示の鑑賞時間の少なかったこと、説明者がほしかったこと、演芸と展示との時間的な工作が必要などの意見が述べられた。また一般の声としては、今回の文化祭は若干の欠点のあったことは事実であるが、学校で行ったことも考えあわせて、一応成功であったと見、来年は、校内だけにとどまらないで校外の人にも開放するようにとの声が圧倒的である。

主張

学級造りに立ち上れ

ホームルーム活発化のために

現在主にリクリエーションだけにしか使われていないホームルーム時間の体質改善をはかるため、学校当局は来年四月からホームルームにディスカッションを多くとり入れるように指導に乗り出すことになった。現在特活部と生徒部とで研究中であるが、実際の運営方法、話し合うテーマ、討論形式などを生徒に指示するのではないかと見られている。

このような学校の積極的な前向きの姿勢に決してケチをつける気はないが、学校が現在考えているようなこのような具体案は、表面上の指導だけにしかすぎないのではないだろうか。いくら立派な内容のあるテーマを与えても生徒が受けとらなければ、何にもならない。馬を泉のほとりまで引張って行くことはできても、飲ますことができないのは身にしみておわかりのことと思うが。

生徒のホームルームに対する態度はまったく無気力きわまるもので、自分たち生徒の間から起ってきた活発化の動きに対してもそっぽを向きかえって足をひっぱることさえもある。ホームルーム不活発の原因は以外に深く、自分と自分をとりまくごく少数の友人のことしか考えられない生徒の考え方自体にも問題がある。

今、指導者である学校が真剣に考えなければならないことは、どのような議題を取り上げるかとか、学校が運営するか、従来通り生徒の自主にまかすか、とかいうようなことでなく、もっと根本にひそむものである。つまり、まず「みんなで手を取りあって進んでゆこうじゃないか！」という考えを生徒それぞれに植えつけることが必要である。そしてホーム内の親和をはかり、ディスカッションをするにしても、活発な意見がでるような雰囲気を助長すべきであろう。

このような指導は、初等教育である小学校、あるいは前期中等教育である中学校で「学級造り」と呼ばれ、盛んに研究、実施されている。この学級造りはクラスのみんなで手を取り合って、一人の落伍者もなく、明かるく楽しい学校生活を送ろうというところに大きな目的がある。そして生活綴方、学級新聞発行、学級内の奉仕グループ、誕生会などがその一環として行われている。学級造りはそのままホームルーム活発化につながるし、ホームルーム時間を活発にすることは、学級造りにつながる。しかし、学級造りに週に一時間しかないホームルームだけをあてようとしても無理である。むしろ日常の学級生活全般にわたっての指導が必要であろう。

学級造りは本校においてはほとんどなされていない。むろん、小学校での学級造りがそのまま本校の中学、高校にあてはまるとは思わない。しかし、中学においても、高校においても「学級（ホーム）」というものがあるのだから、当然「学級造り」がなされなければいけない。「学級」というものが、単に、便宜上一教室に生徒を集め、机を並べているというだけのものではない、ということは、誰よりも教育者である先生方がご存知のはずである。毎年必らず、非行に走る者成績不良のため原級に止まったり休学したりする者、ノイローゼになる者などいく人かの落伍者が出るのも、一ホームに六〇人も七〇人もつめこんでおきながら、学級造りということを少しも考えなかったところにも、大きな原因があるのではないだろうか。

また、一ホームに六〇人も七〇人もの生徒がいれば、当然生徒同志が知り合うということもごく限られた人数の間でだけしかない。だからホーム内がバラバラで、せっかくホームというものがあるのに、ホームでこぞって何かするといってもなかなかできない。学級造りは、本校においてはなおさら必要なのである。

学級造りを押し広げてゆけば、やがては「学園造り」になるであろう。この学園造りがなされたときはじめて、名門土佐の名に恥じない、真に明かるく活気に満ちた学園ができることと思う。

しかし学校がやるのはあくまでも指導であって、実際に学級造りをやり、ホームルームの活発化をはかるのは、われわれ生徒でなければならない。一ホームを形成しているのは六〇人の生徒に一人の教師であり、学級造りは六〇人の生徒のためのものなのである。今、生徒は、週にわずか一時間しかない我々の時間、ホームルーム時間が奪い取られるかも知れないということを自覚しなければいけない。ホームルーム時間を自分たちの手に残しておくためには、自分たちの手でホームルームを活発にしなければならない。真のホームルーム活発化は学級造りに通ずるということは前に述べたとうりである。

現在、高一Kホームでは十数名のホームルーム運営委員らによって、ホームルーム時間を中心に、徐々に学級造りの仕事が始められている。ホームルーム時間では、話し合いにはお茶とお菓子をはさんだ座談会形式を取り入れたり、リクリエーションでも男女の能力の差が大きいスポーツは極力さけ、フォークダンスなどを選んでいるとのことである。ホームルーム時間以外では、ホームの者全員が誕生日の人を祝って誕生カードを送ったり、終礼にコーラスをしたりしており、三学期からは朝のショートホームの利用も考えているという。

一例として一Kをあげたが、他にもいろんなホームで、自分たちのホームをより良くしていこうと努力していることと思う。このような動きを決して見殺しにせず、ホームの者全員が協力して、それを学級造りにまで持っていってもらいたい。まだそのような動きのない所は、学級造りにさっそく立ち上がってもらいたい。そしてこのような動きが次から次へと起ってきたとき、それを生徒会に結集して、生徒の手による学園造りとしたいものである。

また低調に終る

今学期最後の懇談会

去る十二月四日懇談室において、今学期二回目の校長先生と生徒代表との懇談会が開かれた。生徒と校長先生との結びつきをはかる目的で発足した懇談会も回を重ねるごとに一般生徒の関心も高まり、年々その内容も充実味を増して来ている。今回は生徒側からは生徒委員会執行部、各クラス代表（高校）が出席し、学校側からは校長先生、松浦先生と御出席いただき、先に行われた行事の反省及び当面の問題、生徒側からの希望が話合われた。行事の反省は運動会、文化祭に分けて反省が行なわれ、運動会に関しては仮装行列、場内整理のまずさが鋭く批判され、一方文化祭の面では、学校を会場に当てたことはよかったとの意見等が述べられた。生徒の希望に関しては、昨今急に注目をあび始めた蛍光燈の問題等が述べられた。

まず蛍光燈の問題に関しては予算の関係でむつかしいとの校長先生からの返答があった。その他、自転車置場増設、黒板の増設、予餞会等の希望が述べられたが、いずれも考慮しておくとの回答で打切られた。かわった希望としては、一Tから事務員さんが不親切だとの意見があった。これには校長先生も注意しておくとの回答があった。

以上のように生徒側からは、いくつか建設的な要望が提出されたが校長先生の考慮しておくで打切られた感があり、代表生徒に二の矢のほしい感のある懇談会であった。

ひとこと

机は大切にしたくない

○…教室に整然と、その光沢も鮮かに並んだ真新しい机。今年度から校長先生の御配慮によりおめにかかれるようになった机。昨年度までは、この教室に落書一杯、足ぐらぐらの天下一品のしろものが並んでいたことは皆様御承知の通りです。

○…この机のおかげで今まで暗い感の有った教室に美人が飛び込んで、パッと花の咲いた感がし（あやしいのですが）勉学欲の湧いたのは見逃せない事実でしょう。しかし私達はここに一つの見逃せない事実を見逃しているではないでしょうか。考えてみて下さい、目を閉じて（眠らないように）そうです。先生はこのすばらしい美人を私達に紹介される時、こういわれたのです。「卒業するまで同じものですよ」と、〃同じものを使う〃あなるほど、こう考えれば味も素気もありません。

○…それではこう考えては、いかがでしょう。卒業するまで同じ机を使って何になるのでしょう。あるのは、席あるいは、教室変更の時、重い机を持ち運ぶ労力と時間の浪費のみです。それでは何故学校はこのような決定をしたのでしょうか。それは前々から言われていた、私達があまりにも机を大切にしないから自分の机として生徒に与えれば大切にするだろうという所から端を発しているのです。これを裏書きするかのように某先生はこういわれました。「自分のものとなれば皆大切にするやろ」と。

○…こうすれば確に机は大切にされるでしょう。大切にされるこれは実に良いことです。この実に良いといわれるのは、公共物であるという考えの上に立っての行動であるからこそ言えるので、自分の所有物であるという考えの上に立って、机が大切にされても実に良いではなく「あたりまえ」といわなければならない。一歩進めば利己的な考えの上に成立した悪い事ということに成りはしないだろうか。

○…学校教育は机を何回も大切に使うというのが本来の目的ではなく公共物を大切にするという精神を養い育てるのが本来の目的であるはずです。

○…道徳教育時間設置などと騒がれている昨今、こういう点に細く気をくばれば、あんがい道徳という時間は不必要ではないかと思われます。

○…私がもし、一言しかいえないなら声を大にして、「私は机を大切にはしたくない、私は社会道徳を大切にしたい」と、ひとことといいたい。（T・M）

ほぼ好評

運動会アンケート

中学、高校生徒委員会では、このたび今年度の運動会について全校生徒を対象にアンケートを行なった。

このアンケートは新しく企画した入場行進など七項目で、来年以降の運動会の反省材料にするもの。種目については、練習不足で充分な結果が得られなかったというのが約四割あり、種目をはやく決定して欲しいとの要望が多かった。開始、終了時間はともに圧倒的に好評で、入場行進も九割まで支持されている。係員の活動もまずまず好評であった。やぐらの規格を設けることに、賛成は約七割、反対は二割にも満たない。以上のように今年度の運動会は不祥事もなく、まず好評であったといえよう。主なパーセンテージ次のとおり（右 中学、左 高校、上 男子、下 女子）

	中学 上	中学 下	高校 上	高校 下
（一）時間に関して				
開始時間				
早すぎた……	一〇%	八%	一八	二四
適当……	七四	八九	五三	七四
遅すぎた……	一三	三	六	一
終了時間				
早すぎた……	一三%	九%	三〇	三〇
適当……	五八	八三	四六	六九
遅すぎた……	二一	六	一〇	三
（二）入場行進について				
来年も行うべき…	二九%	三九%	二八	四〇
行うとよい……	四一	四五	二八	四四
必要なし……	二三	一一	一二	一〇
改善すればよい…	八	六		
（三）やぐらの規格について				
設けるべき……	四三%	二三%	三二	三五
設けるとよい……	三三	四八	二二	三四
廃止すべき……	一〇	五	一七	一七
分らない……	一四	二四	一五	一四

石丸さん 葛目さん 留学確定

AFS奨学生として

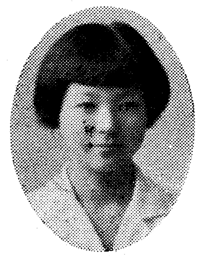
アメリカンフィルドサービスの奨学生として本校から石丸さゆりさん（一H）と、葛目玲子さん（一K）の二人が、来年夏から一年間アメリカへ留学することが確定した。十月の高知県予選につづいて徳島で行われた第一次試験を経て、十一月に東京で行なわれた第二次試験にも見事合格、いよいよAFS本部における最終選考を待つばかりとなったが、最終選考は書類選考で、毎年の例から合格はまちがいないものと見られている。

石丸さんは、中一のころ「中沢先生が好きだ」という動機から英語に興味を持ち、外人のもとへ会話を習いに行くなど熱心な勉強を続け、また、中谷さんや曽我部さんの留学やおばさんの欧米旅行などに影響されて応募したもの。

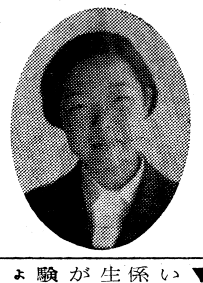
葛目さんは、中二のころから英語研究部へ入って勉強を続けていたが、実際に応募を決心したのは今年の夏休みに入る前で、夏休中の猛勉強が実を結んだとのことである。

これで本校在学中に留学するのは五人となり、英語担当の平林先生は、これからもどんどん応募し、海外へ遊飛して夢を大きく育てて欲しいと語っていた。

石丸さんの話　英語を勉強してくるのはもちろんですけど、むこうの高校生活とか、家庭生活とか生活ぶりをよく観察してきたいと思っています。



葛目さんの話　日本を離れてはじめて日本の良さ悪さがわかるだろうと思いますので、日本のそういう点、そしてアメリカの雄大さなんかを学びたいと思います。



戸田君（二T）一位に

英語弁論大会

毎日新聞社主催の第十五回英語弁論大会と第一回スペリングコンテストは、十一月二十三日潮江中学校において盛大に開かれた。英語弁論大会は本校をはじめ中学校十数校三十八名、高校七校七人の参加があった。中学校の部では本校は第四位に刈谷憲子さん（三C）第五位に岡部直明君（三B）がそれぞれ入賞した。高校の部では、戸田博之君（二T）が堂々と第一位を獲得した。

その後で行なわれた今年初めて企画されたスペリングコンテストには本校をはじめ県下各地の中学校（計二十八チーム）が参加した。本校から出場したAB両チームのうち、Aチームは惜しくも入賞を逸したがBチームは見事第一位になった。大会の後、英語担任の先生は、『全体にみて昨年に比べたらよい成績であったが、本校の成績としてはあまりかんばしくなかった。十分な練習時間があれば、かなりの成績があげられたと思う』と語っていた。

らくがき

▼世はまさに抜け毛のシーズン！「加美の素」の売れ行きがグッと良くなったとか、ならなかったとか……。フルシチョフ首相は日本女性のふさふさとしたみどりの黒髪をご自分のおつむと同じようにしてしまうおつもりではないでしょうか。

▼ところで、M・M・Cをご存じですか？（なに？マリリン・モンローとクラウディナ・カルディナーレをたして二で割ったようなすごい女性だろう、ですって）これはマイクロ・マイクロ・キュリーという放射能を測る単位ですぞ。先頃、放射能対策本部は「現在程度のチリ、雨に含まれる放射能では、特に心配する状態ではない」と発表しましたが、これすなわち政府のおえら方には、M・M・Cを「マダマダシナナイ」と読んでほしいように見受けられます。ところが一方、気象研究所の三宅博士は「我々は死の灰を緊急事態以上にあびている。」と発表して、ジャーナリズムは、けんけんごうごう。どうやら「モウモウシニソウ」の方が正しいようにも思われます。

▼どちらにせよ、「こんなことにいちいちかまってはいられない関係ナイ」というのが、わが土佐高生のいつわらざる心境のようですが、まあ、放射能ノイローゼで試験に落ちるなんてよりはましでしょう。いや、なかなかにタノモシイ限りです。

▼物理部は今や、わが文化部のホープ（？）といった形で、死の灰の増加に比例して部員数も増える一方。何といってもお上の指導がおよろしいようで……放課後、校長室にお姿の見えない時は、新館一階物理室へどうぞ。

▼ソ連の五十メガトン爆弾が、きれいな核実験であったにせよ、なかったにせよ、私達にぬぐいきれない不安と恐怖を与えたことは、許されるものではありません。そのうえ、アメリカの爆撃機は二十五メガトン爆弾を二個積載しているということだし、ソ連は百メガトン爆弾保有を誇っているなんてあまりにも、子供っぽい応酬を続けていると思いませんか。脅しによる〃平和戦略〃はまっぴら！ここいらでも少し理性的になり、静かな言葉と姿勢で〃平和〃を語ってもらいたいものです。どこの国でも、どんな理由があろうとも、この世界に死の灰を降らす権利はないのですから……。

▼〃平和〃ということを痛切に感じることもなかった大らかな時代は、もうすでに遠い昔のこととなったのでしょうか。

もず叫べど
死の灰またも降るという
（K・T）

イリキ眼鏡店
高知ハリマヤ町 電②0998番

趣味の陶器を沢山揃えております
依光陶美堂
高知市オビヤ町　TEL ② 232

ナショナル
暖房器は
京町
穂積電気商会
TEL②6646

創業明治二十年
老舗 中納言
高知市大橋通 電話(二) 〇五七三 二九七九 番

校友の店
高雅堂クツ店
高知市帯屋町一丁目　TEL②2960

辞書・参考書
ザッシ
螢雪時代
高校時代　予約承ります
中学時代
明文堂
堺町TEL②六三九五

土佐高の店
クリスマスプレゼントに万年筆を
白亜堂
帯屋町東宝劇場西三軒
TEL ② 2473

楽しい学生生活の記録を
あなたのアルバムに残しましょう
キタムラカメラ
堺町　１９　TEL②3154～6

高知一の定評　うまい鮨は
高知大丸西口前
菊寿し
電話㈡三三六六
お二階も一般席ですので
お気軽に御利用下さい

来年度の中学校

六十名クラス実現

全校実施は昭和四十二年

中二・三は五クラス編成

校長は本校就任当時から〝クラスの定員をもっと少くしたい〟との意向を表わしていたが、このたび「来年度の中学一年の定員は二四〇名とし、二年は三十八名、三年は二十四名それぞれ編入生をとり中学全クラスを六十名とする。またそのため二年、三年は高校並の五クラス編成となる。**これは全国的にも多い今の一年二年をもっととつて欲しいとの**県教委からの要請もあったからでもある。昭和四十二年にはクラス数は従来通り中学各学年四クラス、高校各学年五クラス編成で、全クラスの定員が六十名という正常の姿になる」との構想を発表した。そのため、来年度五クラス編成になる中学二年、三年は高校進級の際には六十名編入生をとり、六クラス編成となることになった。

校長はクラスの定員をへらす目的として

（一）教育効果の向上を計る。

（二）生徒個人の生活指導の充実をはかる。

との二つを指摘している。校長としてももっとクラスの生徒数をへらしたいが現状では精一杯とのことであった。しかしながらその成果は各方面から非常に期待されている。

今年度の中学一年は各クラスとも六十五名前後だが、戦後のベビーブームの時代に生まれた二年は六十九名から七十名という驚異的な数の生徒を収容しており超満員の有様である。また生徒の机は教卓のすぐ横から後の壁際までぎっしりつまっているため、教室内での移動はままならず、授業の初めと終わりの礼もろくにできなく、生徒からも先生からも不自由がられている。このたびの学校側の決定を聞いて、大多数の者は大喜びでその日のくるのを今から待ち望んでいる。

来年度からの二クラス増加に伴いその実施方法などをめぐり色々と問題点がでている。教室は増築せずに売店と社会科教室とをあてがい、売店は社会科準備室を改造して使用しそこにおいでる先生方は職員室に移られることになる。また不足する教職員は専任教諭を三名ほど、時間講師を数名増やしてまかなう予定である。

来年度以降現在より二クラス多い状態が四年間、その後一年間は一クラス多い状態が続き、何かと校内がふくらむような様子になってくるが学校側は今のところ校内の改造については、売店などを教室に改造する以外は何も行わない意向である。また体育館、運動場、自転車置場、下校時の昇降口などの混雑についても生徒の自覚をうながすということしか考えてなく、一部にはこのような学校側の態度に大きな疑問と不安とをいだく者もいる。

教職員をふやしたりするため、父兄や生徒の間には授業料の値上げを心配するむきもあるが、学校側は「食堂から出す遠征費をもっと少くしてその分をあてるなどするから、今のところ授業料の値上げをするつもりはない。しかしその時々の経済事情などにもよるが、今の授業料でこのままいくというのは不可能だから昭和四十二年度までには値上げもやむをえまい。だがその時には生徒会や振興会にも相談して決める」と語っていた。

中二Kさん談

今までスシ詰めの感があったのでクラスの生徒数が少しでも減るのは賛成です。また高校になっても六クラスになるそうですが、人数が増えて勉強にも張り合いができてよいと思います。

高二S君談

クラスの生徒数を減らすのはいいことだと思う。しかしそれに伴って当然行われるべき校内の改造や設備の充実をはからないとはどうしたことだろう。このままではたとえクラスの生徒数は減ったといっても、むしろ学校全体としてみれば今までよりもっと飽和の状態に近づくということになりはしないだろうか

校長談

私自身もっとクラスの定員を減らしたかったんだが現状ではこれが精一杯だ。今までどちらかというと答案などによりその人を評価するという悪い風潮が強かったようだが、今後は平常の授業を重視してみんなが授業についていけるよう教科指導などを行い、目的を果たすよう努めたい。またそのためにも先生方も大いに奮起して生徒の中に飛び込んでいくようお願いしたい。

中山 永野

先生元気に帰高

予想外の大成果を収め

高知新聞社派遣の琉球列島学術調査団一行十名は、約一ケ月間の調査を終え、十一月二十三日夜九時半高知駅着の列車で全員無事帰高した。一行の動物班として調査に当った本校の中山、永野両先生は「向こうではハブにもかまれず予想以上の成果を収めた。しかしこんど採集したものはほんの一部でまだまだ珍種や日本名のついていない生物は沢山あり、全く無尽蔵の感がする」と日焼けした顔をほころばせながら感想をのべられ、採集の成果を強調されていた。

高知大学の蒲原教授を団長とした一行は十月二十五日高知港から汽船で出発し、途中屋久島付近で強い低気圧におそれ二日ほど遅れはしたが、三十一日全員無事沖縄本島の那覇に到着した。そこで一行は動物班、植物班、民俗班にわかれ、両先生の属する動物班は沖縄本島を舞台に四日間採集した後石垣島に渡り、一週間滞在して貴重な成果を収めた。さらに中山先生が人魚の骨を持ち帰った新城（アラグスク）島を経て、宮古島に行き四日間調査を行なった後、再び沖縄本島に帰ってきた。その間、中山先生は貝類とその他の海産動物を、永野先生は魚類の採集調査を受け持った。中山先生は貝類では、巻貝の一種の後鰓類、パイプウニなどを、海産動物ではコブヒトデ、アオヒトデなど数多くの珍種を採集された。

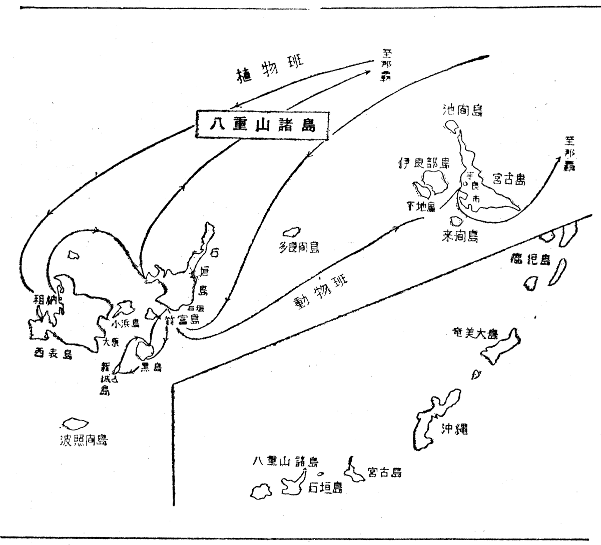
いっぽう永野先生もブダイの類など、日本名のまだついていない魚を何十種類も採集され、それらはみなホルマリン漬にして、石油カンに入れて持ち帰られている。

沖縄本島の那覇で再び合流した一行は、観光バスに乗り戦跡めぐりを行った。特志看護婦として戦争にかりだされた沖縄県立第一高女と沖縄師範女子部の女学生一四三名及び先生十五人の御魂が安置されている有名な〝ひめゆりの塔〟や沖縄師範の学生二八九名が、野口校長以下一七名の先生と共に自決した跡に建つ〝健児の塔〟など思わずまぶたが熱くなってくるようないたましい戦跡の連続で、いかに戦争がひどかったかをまざまざと見せつけられたそうである。両先生は「何だかお参りに来たような気分になって、数多くの戦跡では身のひきしまる思いがし、冥福をいのってきた」と語り次の文を示して下さった。

門出の朝は愛らしき、笑顔で母
を振り返り、振りしハンケチ今
いずこ。ああ沖縄の夜あらしに
悲しく散りしひめゆりの花。

永野先生談

心配していた病気にもかからず全員無事帰高できて非常にうれしい。我々動物班でも熱帯性の魚や貝や棘皮動物などの珍種を数多く採集し予想外の大成果を収めた。又各地の風俗や習慣にも接したので、その方面でも大いに勉強になった。今後しばらくの間は整理に多忙をきたすだろう。



ちょっと失礼

平岡竹彦先生

いつまでも

研究途上の学徒の気持で

広い額。笑うと金歯がキラキラとまぶしく光る。大きな目をひそめる誰やらバリの黒縁のメガネ。いかにも芸術家タイプのお顔である。

我々記者はもう町々にあわただしい師走の風が吹き始めた、ある日曜日の昼下り、比島の踏切りを渡ってすぐの市営比島アパートに平岡先生御一家をお尋ねした。残念なことに素晴らしいお方であろう奥さんは、和人ちゃん、雅人ちゃんお二人の子供さんのお伴をして近くの保育園の学芸会に行かれてお留守だった。きれいに整頓された居間に通されると、まず我々とは縁遠い古典など文学書が、ぎっしり並べられているのが目に入った。背広をぬいで着物を着ていられる先生にぐっと親しみを感じた記者一同、開口一番「先生御結婚は恋愛でしょうね。それともお見合ですか」とうかがってみた。「いやあ、君らあの想像にまかすよ、アッハッハ」第一問はまんまと逃げられてしまった。しかし何とかしてひっぱり出そうと「いつ御結婚なさいましたか」「あれは昭和三十一年の十月ごろだったかな。とにかく結婚一周年はちょうど運動会の日だったということは覚えている」とのこと推量形を使っていられるところを見ると、ちょっとてれているらしい。気の毒に思ったので、質問を変えてみた。「ところで御趣味は」「多趣味でね。スポーツでは野球、水泳、相撲など。僕は見るのもやるのも好きなんだよ」記者一同がまじまじとお体を眺めているのに気がついて「いや、これでも中学時代は相撲部に入ってたんだよ。その頃はもっと太っていたけど」先生はとりわけ大相撲がお好きだそうである。場所ごとに記録をつけ場所がすんだら批評なども書くため休日をまる一日ついやすほどである。ごひいきの力士は、現役では三段目ごろから目をつけていた横綱大鵬だが、現在解説をしている神風さんが一番ひいきだったそうで氏が三年ほど前高知にやってきたとき、旅館を訪問して相撲談義に花を咲かせたそうである。「しかしねえ、僕はプロ野球でも大相撲でも勢力のあるめぐまれた球団とか部屋には、何となく反撥心を感じて巨人なんかひいきには出来ない性分でね。けど何もあんなの消えちまえ、つぶれてしまえというんではないんだよ。やっぱりあって欲しいけど何となくね」不満であった巨人びいきの記者も、いつのまにかなるほどなるほどとうなずきながら、平岡先生に何かお願いする時にはスポーツの知識が必要だなと思った。

先生は日本三大美林の一つとして有名な魚梁瀬森林などのある山峡安芸郡馬路村の生まれである。昔、壇の浦で死んだはずの平教盛がのがれ住んだという伝説さえ残っている秘境で、どんどん生長した竹彦少年はやはり大きくなったら先生になりたいと思っていたそうである。しかしどうした心境の変化やら、生まれつき体はあまり丈夫でなかったため両親から反対されていた愛媛県の弓削商船に、友人にこっそり願書をたのみ入学した。しかし終戦になって生徒数をへらすという学校側に志望退学をすすめられ、高知へ帰ってきた。その後転校された安芸中学（今の安芸高校）では、現在本校においでになる中山先生や石川先生にも教わり、また一年後輩には永野先生もおいでたとのことである。

「ところで本校生徒をどのように思われますか」「そうだねえ。長所といえば、全般に素直な生徒が多いようだねけど時々なんて利己的なんだろうと思うこともある。これがなくなれば、もっと学校生活が充実したものになるんだがね。結局、みんな若いんだから目先のことにとらわれず積極的に行動して欲しい」積極的という語に強く動かされた我々はどんどん積極的に質問しようと思いお聞きした。「部の多少が問題になっていますがいかがですか」『僕は文化部のことはあまり知らないが、水泳部の顧問をしていて一般に感じることは、生徒のわりに部が多すぎていい選手がちらばってしまうということ。これが最近の運動部の不振の大きな原因になってはいないだろうか。また苦しい下積生活をすることによってその人自身大きく成長することができる」部員が少くて困っている我々新聞部一同大いに感激して聞いていた。

しびれが切れて足がむずがゆくなってきた我々は、最後に先生の生活観をうかがってみた。「僕は上に立つ指導者的存在になる才能はないし、またあまり好まない。それよりも若い人達の中にとび込んでいき、研究途上の学徒という気持でずっといたい」

和人ちゃん達の小ちゃなスリッパがそろえられている玄関を出ると、アパートの影はすでに長く尾を引いていた。

物理部大活躍

放射能測定に

現在本校物理部では、細木先生以下十四人の部員が、放射能測定に活躍している。放射能を測定している高校は、全国的にも非常に少なく、県下においても本校ただ一校である。物理部が測定を始めてからわずか二年ぐらいであるが最近のソ連の核実験の際にも放射能測定を行い、その結果は刻々と某日刊紙紙上や、ラジオなどを通じ全県下に知らされるなど放射能対策に非常に貢献している。

測定は、雨と塵とについてであり、採取時間はだいたい午前九時から翌日の午前九時、午前十時から翌日の十時の二十四時間で、雨量一リットルあたり何カウントの放射能を含むか、また塵は一平方メートルあたり何カウントかを調べている。放射能の量は昨年七月頃からしだいに減り始めて、その後百カウント以下の状態が続き、自然係数（太陽等から来る宇宙線等によるもので約三〇カウント）程度であった。しかし最近ソ連が核実験を再開したために、物理部では十月に入ってしだいに上昇する放射能の量の変化を測定し記録している。今までの測定値の最高は、十一月七日の塵中四万七千八百カウントでこれは明らかに核実験によるものである。

細木先生談

放射能測定を行っている部員達は一時騒がれてとまどっていたが、だんだんふだんのふんいきにもどり、やっと近ごろ落ちついてきた。地味な仕事ではあるが全員一生懸命測定を行っている。

先生

相次いで病む

木戸先生いまだ病床に

書道担当の木戸先生は七月からずっと日赤病院に入院しておられる。病名は頸椎軟骨症、変形脊椎症、根性座骨神経痛といって、頸椎の骨が出って、神経を圧迫し、手と腰が痺れる病気である。そこで腰と脊椎を重い重しで引っ張っていて、全く不自由な体になっていられた。「先生右手でなくて良かったですね」の質問に「右手じゃったら死んだがましです。これは私の命ですからね。いろいろ手を尽してみましたが、直らん。この痺れがすっと引いてくれたら……学校にも迷惑をかけて」と痺れている左手をしきりに摩りながら、悲しいというより、むしろ腹が立ってしょうがないといったご様子である。さらに「私は吉本先生や北村先生が羨やましいですねえ、まるで鉄の体のように丈夫で」と本当に羨やましそうである。それでも、徐々によくなって来ているので、来年の一月頃には退院出来るだろうとのこと。

河原崎先生

十二月一日から登校

英語担当の河原崎先生は、長い間膠原病のため休んでおられたが、この程全快。十一月末までは、下宿で好きな読書等をして静かに養生し、十二月一日から学校に来られている。なお本校の生徒については「進学も大切だがプラスαがほしい。だから出来ればみんなが文化部に入ったらよい。そして建設的に社会へ働きかければ、文化部の向上にもなるだろう」となかなか積極的なご意見を述べてくださった。

トピックス

珍プレー続出

去る十一月二十九日の放課後、旧グラウンドにおいて本校職員対抗ソフトボール大会が催された。日ごろ難かしい顔をして威厳を保っておられる先生方も、この日は生徒の声援をうけながら童心に返ってボールを追っていた。その際のメイ・プレーをひろってみよう。

○〝オンカン落ちつけ。オンカン落ちつけ〟の声援も空しくピッチャーゴロを打った中山先生、足もとに貝の珍種でも発見されたのか球が一塁に送球されるのもどこ吹く風、じっと下を見つめたまま動かず。よほど沖縄の印象が強かったらしい。

○北側のグラウンドでの紅一点はみなさんご承知の給仕さんの高橋さん一球ごとにオツムをコックンして、まるでウィンクでもしているかのよう。沖縄から帰られたばかりの永野先生、さすがに眩惑されたのか暴投続出「ああ、先生に代ってやりたいな」の声しきり。

○頭に真白いはちまきをキリリと結んだ小松先生、牛若丸ばりの跳躍力でアウトコース高目のボールも何のその、打球は転々ライト前へ。

〝さすが、さすが〟

県展へ三人入選

去る十月二十二日から十一月五日まで県民ホールと大丸展示会場において開かれた第十五回県展に、本校からも先生二人、生徒三人が入選した。

部門別には、洋画部門には美術担当の高崎先生、講師の坂田先生、都築貴彦君（一T）森田公君（一K）工芸部門には北村文典君（一T）―以上各一点―写真部門には高崎先生（二点うち一点特選）がそれぞれ入選を収めた。

本校の出品水準は回を重ねるごとに向上してきているが、今回においても特に注目すべきことは、入選した生徒三人とも高一であるということで、これは今後の本校美術面に大きな希望をもたらした。

都築君談

微力ながらも認められたということはうれしい。今後もこれを基盤として頑張りたい。

（写真は右から北村、都築、森田各君）

アメリカ見たまま

カリフォルニア州ロスアルトスにて

神崎紀久子

十一月も終りに近づき、追日冷気が加わって来ます。

私の留学生活もはや三ケ月半になろうとしています。その間に見たり、聞いたりして日本と異った点にいくつか気がつきました。最初、アメリカの学校生活について少し述べてみたいと思います。

登校する日は週に五日間で、土曜、日曜は休日です。一年間に修得しなければならない課目は五課目か、六課目、とらねばならない二、三課目（英語、体育等）以外は全て選ぶことができます。毎日同じ課目ですから、とても深く学ぶわけです。毎朝授業前は、アメリカ合衆国の国旗に向い、胸に手をあて国に忠誠を誓います。週に一度は国歌か校歌を斉唱します。自由の国アメリカでさえも国旗や国歌を大切にするのに、日本では国旗や国歌が忘れられがちなのはいかにも残念なことだと思います学校から二マイル以上家が離れている場合はスクール・バスを利用することができます。これは無料です。

高校までが義務教育となっていますので公立学校の場合、高校でも無料なのです。

日本の学生とアメリカの学生を比較してみて、日本の学生は確かによく勉強しますが、時間の使い方はアメリカの学生の方が上手なように思われます。勉強の時間、学校以外の社会的な面で活動する時間（例えば、ガールスカウトに属す、オーケストラに属す、身体障害の子供を助ける会に属すなど）そして遊びの時間と、その切目をはっきりし、もっとうまく使いわけているように感じます。時間の厳守の観念は徹底していて、学校の遅刻などは日本の学校以上にきびしく、遅刻した場合は、その場で理由を書いて提出しなければなりません。土佐人は特に時間を厳守しないといわれていますがこの点に於いては、みならうべきではないかと思います。授業終りの鳴る三分前になると、さっさと教科書をまとめ、次のクラスに行く準備をします。先生もそれを時間厳守の一つと見て別に注意なさろうともしません。

一方、行儀の悪いことには驚かされました。歩きながら物を食べても、女子があぐらをかいても誰も何もいいません。授業を受けながらガムをかんでいる人もいるしキャンディーを食べている人もいる。前が空席だと、そのいすに足を長々と伸ばして授業をうけている女子もいるしまつです。日本とアメリカの習慣の違いのはなはだしいのには驚きました。

まだまだ観察は足りませんがこんなに感じました。これからも日本の生活と、アメリカの生活を色々と比べてみたいと思います。

声

高三をソッと

私達三Tの教室は毎日音楽室と習字室、図画室の騒音に悩まされている。音楽教室からは人を変にイライラさせる金属的な不協和音がしょっ中聞えてくるし、習字室図画室への出入りの者は足音も高らかにこちらがまだ授業をしているのに、行き来をし、私達の教室の前の水飲場で声高に話合い度々私達の眉をひろめさせる。挙句のはてにドヤドヤと教室の前を駆けて行ったり友達二、三人とペチャクチャ話し合いながら通って行くこちらが授業をしていることなんかには一向おかまいなしだ。また理科教室、図書館へ行く者も非常に騒がしい。授業開始のベルがなってからとか自分達の授業が早く済んだ時とか、僕達の授業はまだやっているのに足音を少しも遠慮せずにゾロゾロ歩いて行く、私達にとっては迷惑この上もなしだ高三はこれからが最も大切な時である。人生の次の段階へスムーズに進めるか否かの瀬戸際である。それを下級生諸君によって邪魔されたくない。そこで望みたいことは、高二以下の諸君に高三の教室の前を通ってもらいたくないことである。絶対に通らなイカンという道でもあるまいと思う。家庭科室や図画、習字室への出入りも静かにしてもらいたい。諸君が静かに歩いてくれない限り僕達は君達に高三の廊下を歩いてもらいたくない。それと、学校側へ望みたいことは、三Tの教室が音楽室のすぐ上であるということについてである。歌っている者は週に一、二回の授業で楽しいだろうが、その全校生徒の分を全部聞いているこちらはたまったものではない。特模も実力試験も充分に力を出しきれない。今までの者がこの状態のままでやってきたといえばそれでおしまいだが、できることならより良い条件のもとで学びたいものである。この点について善処を要望する次第である。（三TA生）

図書委員に思う

図書委員は、本の貸出しカードの管理や図書の整理をする委員です。図書館の運営を円滑にするためになくてはならないものだといえます。本校には蔵書数は多いとはいえないが立派な図書館がありその運営のために図書委員が設けられています。この図書委員が自分の任務を忠実に行なわないとしたらどうでしょう。図書の活動は停滞してしまうばかりです。二学期をふりかえってみるに、どうもそういうふうに感じられてなりません。委員のうちでまじめに自分の仕事をやった人は、全体の三分の一もないようです。なるほどこういう仕事は、地味で目立たないからやる気がおこらないかもしれません。目立つからやる、目立たないからやらない、という考え方が一般的なようですが、皆がやりたがらない仕事をやり上げることこそ、本当に立派な仕事をしたといえるのではないでしょうか。図書委員は、もっと責任感をもって自分の任務をはたすべきです。そうして単に図書の整理をするだけでなく、皆で相談して読書の啓蒙や案内を行なっていくという活動を行なうべきでしょう。この図書委員の責任感のなさ、活動の不活発の原因の一つは、委員の選挙の仕方にあります。ホーム委員をきめた後で残ったカスを図書委員にまわすというやり方をあらためないかぎり、図書委員の良質化は望めないでしょう。図書委員には本当に本が好きで、本を整理し、管理することに喜びを感じる、そういう人になってもらいたいものです。それから図書の先生方も、図書委員はただ本の整理をしていればいい、と考えないで委員と共に図書館のことを考え、共に図書活動を行なっていく、という態度をとって欲しいと思います。図書委員があまり活動しないという原因には、生徒の考え方と共に、先生方のほうにも責任があるように思われてなりません。（高一X）

記者
カメラマン
大募集！
新聞部

デコレーションケーキ
高知市新京橋27　TEL②0809・1695
ねぼけ

制服は高知学服（入交）
中の橋電停北側
電話②２７４４番

TEL ② 0105・0106
すし柳
高知市南ハリマヤ町

参考書・専門書の御用命は
金高堂書店
TEL ② 8285・8286
土電会館書籍部
TEL（代）② 0111

日本毛織　リファインテックス専売店
高級服地を進学進級に
毛織なら絶対折目はのきません
株式会社 丸賀洋服店
（信用を重んじて営業する店
服だけは信用ある店で）
高知市京町３１
TEL ② 3370

土佐高指定店
帽子←帯屋町一丁目
元田帽子店
TEL②二五九一

作業服・学生服・制服
有限会社 中津商店
営業所 オビヤ町一丁目
TEL②六三七二・五七一八

通学用・旅行用・かばん・袋物
マエダ
かばん店
高知市帯屋町１８　②８６００・８６０１

土佐名物サンゴと
装身具は
池田珊瑚店
高知市帯屋町一丁目　TEL②０３５８

土佐名物・東京への御土産に
立石蒲鉾店
京町　電②６２７９